

ORF Vienna Radio Symphony Orchestra

バーンスタイン、サヴァリッシュ、シノーポリら多くの巨匠に愛された名門オーケストラ、ウィーン放送交響楽団が8年ぶりの来日公演を行います。指揮は、1990年、バーンスタインの愛弟子として第1回PMFに参加。以降、破竹の勢いで活躍を続け、今や世界最高峰の女性指揮者との呼び声高いオルソップ。プログラムはオルソップが推すアメリカの女性作曲家による弦楽オーケストラのための作品とベートーヴェンの傑作交響曲。そして、世界が絶賛する日本の若きスターピアニスト角野隼斗がこのウィーンの伝統を継承するオーケストラと共にモーツァルトの協奏曲に挑みます。2024年秋、注目の顔ぶれで贈る、稀有な名演への期待は高まるばかりです。

マリン・オルソップ (指揮)

Marin Alsop, Chief Conductor

ニューヨーク生まれ。イエール大学とジュリアード音楽院を卒業後、バーンスタイン、小澤征爾らに学ぶ。1989年、タングルウッド・ミュージック・センターでクーセヴィツキー賞を受賞し、翌年にはバーンスタインの招待でPMF音楽祭に参加した。米国メジャーオーケストラの音楽監督など多くの要職を務め、女性指揮者の躍進を牽引している。コロラド交響楽団の音楽監督、ボーンマス交響楽団、サンパウロ交響楽団の首席指揮者などを歴任。2007年から14年にわたってボルティモア交響楽団を音楽監督として率い、現在は名誉指揮者を務めている。2019年にはウィーン放送交響楽団の首席指揮者に就任。また、ポーランド国立放送響の芸術監督兼首席指揮者(2023～)、フィルハーモニア管(2023～)、フィラデルフィア管(2024～)の首席客演指揮者に就任するなどその活躍はとどまるところを知らない。近年は、ロイヤル・コンサートヘボウ管、パリ管、ロンドン・フィル、シカゴ響などに定期的に客演。ディスコグラフィも多岐にわたり、グラミー賞にも多数ノミネートされている。



© Nancy Horowitz



© Ryuya Amao

角野隼斗 (ピアノ)

Hayato Sumino, Pianist

2018年、東京大学大学院在学中にピティナピアノコンペティション特級グランプリ受賞。2021年、ショパン国際ピアノコンクールセミファイナリスト。これまでにポーランド国立放送響、ボストン・ポップス、ハンプルク響、N響、読響など、国内外のオーケストラと多数共演。CASIO電子楽器アンバサダー、スタインウェイアーティスト。クラシック音楽に特化した新アプリ、Apple Music Classicalのアンバサダーを務める。

“Cateen (かていん)”名義で活動するYouTubeチャンネルは登録者数が130万人超、総再生回数は1億回を突破。海外での活動も増え、ブルガリア、ブダペスト、パリ、ウィーン、ポーランド、シンガポール、台湾、韓国などにて公演を開催し、現地の観客から称賛を得ている。現在は、拠点をニューヨークに移すなど、世界各地で活動を行っている。2024年、ベルリンに本拠を置くSony Classicalと専属レコーディングのワールドワイド契約を締結。クラシックのピアニストとして確固たる位置を築く一方、ジャンルの垣根を越えた音楽の探究心で知られる、唯一無二のピアニストとして注目を集めている。

<https://hayatosum.com/>

ウィーン放送交響楽団

ORF Vienna Radio Symphony Orchestra

オーストリア・ウィーンを本拠とするオーストリア放送協会(ORF)所属の放送オーケストラ。1969年に設立され、96年まではオーストリア放送交響楽団の名称で活動を行った。ウィーン・フィル、ウィーン交響楽団と並ぶ名門オーケストラとして広くヨーロッパで目覚ましい活躍を繰り返している。ミラン・ホルヴァートやローター・ツァグロセク、デニス・ラッセル・デイヴィス、ベルトラン・ド・ビリー、コルネリウス・マイスターなどの名指揮者が首席指揮者を歴任し、2019年からはマリン・オルソップが首席指揮者に就任。

古典派から現代音楽までレパートリーは幅広く、特に現代音楽に強みを持ち、バーンスタイン、ペンデレツキ、ルトスワフスキなど作曲家本人と初演を手掛けてきた。各地の国際音楽祭に招かれ、欧米、アジアなどツアーも多数。歌劇場オーケストラ、映画音楽でも存在感を発揮している。

2022年には政府のオーストリア放送への予算大幅削減により存



© Theresa Way

続問題が報道されたが、音楽を愛するウィーン市民をはじめ世界中から支援がなされて撤回、古き良きウィーンの伝統を残す貴重な存在として活動を続けている。